

医療法人慈愛恵真会理事長 あらかい歯科医院(福島県)

## 松本勝利 先生



1987 明海大学歯学部 卒業  
1989 医療法人慈愛恵真会  
あらかい歯科医院 開業  
1998 GLOBAL DENTAL SYSTEM 代表  
2006 dTiワールドメンバー  
2006 日本顎咬合学会 認定医  
2008-2017  
明海大学歯学部 生涯研修担当講師  
2011 日本顎咬合学会 学術委員  
2013 神奈川歯科大学 咬合機能回復  
補綴医学講座 有床義歯補綴学分野  
非勤務講師  
2014~2017 福島県歯科医師会 学術担当理事  
2014~2017 福島県歯科医師連盟理事  
2018 鶴見大学 クラウンブリッジ補綴学講座  
非常勤講師  
2021 明海大学 機能保存回復学講座  
保存治療学分野 客員准教授  
カムログインプラント公認インストラクター

松本勝利先生の著書

■GDS総義歯の真髄  
クインテッセンス出版

■聞くに聞けない臨床手技のピンポイント37  
デンタルダイヤモンド社

## ~支台歯形成の基礎と応用~

支台歯形成時に、気を付けなければならない事項には、下記の4事項が重要である。

- ☆補綴物強度を考慮した形成
- ☆審美的側面を配慮した形成
- ☆脱離しないようにするための形成
- ☆確実な接着方法

補綴物の強度担保をするには形成量をコントロールする必要がある。金パラジウム、CAD/CAM冠、ジルコニアモノシリック冠、オールセラミック冠などの材料に対して確実かつ容易に形成を行うには、形成量が最終補綴物に対して確保されていることである。この形成時にその量が正確に確保できたかを判別する為の定規代わりとなる直径などが計算されたバーを使って支台歯形成をすることで、安定した支台歯形成を行うことが可能となる。

また一方で、審美的側面から見た形成ルールとは、PFM・PFZ・ジルコニアモノシリック・e-max・ベニアなどの形成については、各々の光特性を考慮した形成量を付帯させなければならない。

そして脱離しないように、支台歯形成の三面形態(切端部(咬合面部)1/3・中央部1/3・歯頸部1/3)とそれぞれのパートが持つ役割の意味を理解して、しっかりと形成を行い、脱離防止となる形成を行うことが重要である。

上記の支台歯形成のお話に加えて、今回は補綴物が脱離などしないように、しっかりと接着、合着させるため臨床的操作手順についても、時間の許す限りお話しさせて頂きたいと思います。



SELF CREATORセット